RYUSEN 隆泉
Winter 2019
vol. 59

「隆泉」2019年冬号
通巻59号（年4回発行）
2019年1月1日発行
編集・発行／公益財団法人 佐野美術館
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43
TEL 055-975-7278
FAX 055-973-1790
http://www.sanobi.or.jp/
デザイン／きむら工房
印刷／日本レーベル印刷株式会社

A Masterpiece is Reborn

REBORN 蘇る名刀

2019.1.7［月］—2.24［日］

脇指 銘 吉光〈名物 鯰尾藤四郎〉鎌倉時代　徳川美術館蔵
©徳川美術館イメージアーカイブ／DNPartcom
【展示期間：1/7（月）～1/30（水）】

「巨匠の傑作」「天下の名品」と絶賛された美術品の数々が、長い歴史の中で火災によって失われました。そういった記録を見ると、「今も残っていたら…」と考えずにはいられません。

本展は、火災にあいながら現在にまで伝えられた刀剣を取り上げます。「焼身」といわれる状態で救出され、その一部が今日まで保管されてきました。

焼身の刀剣に再び焼き入れをして刃をつくることを「再刃」と呼んでいます。再生＝REBORN。今回の展覧会のタイトルです。

日光東照宮には、歴代将軍や大名が徳川家康の御霊に奉納した名刀が保管されていました。昭和の終わり、江戸時代の火災で被害を受け焼身となった刀剣から数口が選びだされ、月山貞一、隅谷正峯、天田昭次、大隅俊平ら人間国宝の刀工たちが再刃に挑みました。焼身となったのは、友成、正恒、助平など、いずれも日本刀剣史に名を残す名工の作でした。友成、正恒の現存作の多くは国宝・重要文化財に指定されていますし、助平は資料の上では名工と名高いながら、現存作がほとんど知られていない幻の刀工です。

現代の名工の手によって再生された刀剣は、「火災に会う前の刀剣の姿はこうであったであろう」と人々の感動をよびました。数十年ぶりの公開となりますので、お見逃しなく。

このように刀剣が再生されるのは、刀剣が単なる武器ではなく、由緒や伝来を重視する宝物であるという一面があることも重要でしょう。

大坂の陣（1615年）では大坂城、明暦の大火（1657年）では江戸城が火に包まれ、そこに保管されていた刀剣もまた被害をうけました。その中から再刃された刀剣の由緒には、悲劇の歴史が書き加えられ、再び宝物として大切に守り伝えられてきました。

波乱の歴史をくぐり抜け、今再び美しい輝きを取り戻した刀剣の物語をご覧ください。

（学芸グループ　志田理子）

太刀 銘 備前国助平【再刃】平安時代　日光東照宮宝物館蔵

太刀 銘 助平【焼身】平安時代　彦根城博物館蔵

ミュージアムショップ

戦国魂
戦国兜根付け
各864円（税込）

拵の素材としてもおなじみの鮫皮です！

バハリ
ハートキーホルダー
各6,480円（税込）

戦国魂
蒔絵シール「蒔絵紋」
各324円（税込）

※「REBORN　蘇る名刀」展会期中（1/7～2/24）のみの販売です。

佐野美術館　人気の定番商品！

藤代　刀剣油
1,080円（税込）

佐野美術館×榛原

鐔柄レターセット
オリジナル蛇腹便箋　800円（税込）

人形司（にんぎょうし）・永徳齋（えいとくさい）
—冴えわたる技と美

名工・永徳齋の人形
—旧安田楠雄家の節句飾りと紙鳶洞（しえんどう）コレクション

2019.3.2［土］—4.7［日］

雛の節句にふさわしく、名工と謳（うた）われた永徳齋の作品を展示いたします。

永徳齋は、日本橋十軒店に明治2（1869）年より店を構えた人形司です。「人形司」とは聞きなれない言葉ですが、江戸時代、御所や将軍家で用いられる品々を調える店を「御用○○司」と呼びました。初代永徳齋は、京都の御用人形司の後を継いで江戸店を開き、維新後「御用雛人形司」と名乗ることを許され皇室御用を勤めました。

それでは初代から三代までの永徳齋の人形を紹介しましょう。

初代（1829～1908）は格式と品位ある京の人形を継ぎ、雛人形と市松人形を得意としました。

二代（1858～1929）は武者人形が代表的で、特に鍾馗像は、茶色味をおびた髪に空を睨む表情、両足を開いた躍動的な姿に特徴があります。

二代永徳齋　鍾馗　紙鳶洞コレクション

三代（1865～1941）は、万国博覧会展示用の生き人形制作をきっかけにアメリカに移住し、博物館で実物大風俗人形の制作に携わったという経歴の持ち主。帰国後は伝統的人形制作に復帰、独特の情感あふれる名作を遺しました。

さて今回注目されるのは、三代永徳齋の手になる節句飾りです。文京区千駄木の旧安田楠雄邸は、安田財閥の安田善四郎（ぜんしろう）以来永く住み続けられた格式ある日本家屋ですが、ここに善四郎の子息楠雄の令嬢美佐子（みさこ）・香名子（かなこ）姉妹の雛飾り一式と、長男のための五月飾りが伝わっています。同邸残月の間の床の間にあわせてあつらえられたという立派な節句飾り、本展会場でも一際目を引く存在でしょう。また、永徳齋研究の第一人者である林直輝（なおてる）氏のコレクションから、武者人形を中心とした永徳齋各代の名品を展示します。

人形美の極致ともいえる、品格と華麗さを兼ね備えた永徳齋の作品が一堂に会するこの機会をお見逃しなく！

（副館長　坪井則子）

▲三代永徳齋
日本武尊（部分）
紙鳶洞コレクション

► 三代永徳齋
旧安田楠雄家節句飾り
雛飾り
公益財団法人
日本ナショナルトラスト蔵
撮影：髙村規
資料提供：髙村達